

ハスカップ もっと知って



苫小牧で企画展 特徴や利用法紹介

苫小牧市民に親しまれているハスカップについて、その歴史や自然誌、美術などを様々な面から紹介する企画展「ハスカップ―原野の恵みと描かれた風景」が苫小牧市美術博物館で開かれている。3月13日まで。

美術博物館は昨年、市民団体とともに、自生地である勇払原野で植生調査や、ハスカップの利用などについて市民からの聞き取りや手記募集などを行っている。今年、ウトナイ湖がラムサール条約登録湿地となつて25周年、ハスカップの「市の木の花」制定から30周年を迎えることから、資料や調査結果を展示し、シンポジウムなどの関連行事を通して、市民にこの植物をもっと知ってもらおうと企画した。

3部に分けて展示されており、第1部はハスカップの特徴や植生などを解説。道東の湿原や日高や道南地

様々な種類のハスカップについて解説を受ける市民ら

方の高山帯などにも分布していることや、勇払原野ではハンノキなどの樹木が増え、ハスカップの環境が変わってきていることを分布図などで解説している。第2部では、開拓期に塩漬けなどで食べられていたことや、その後、ようかんやもなかの原料に利用され、1960年代以降は菓子「よいとまけ」に使われるなど栽培果樹となつた経緯を紹介している。第3部では、勇払原野の風景や生活を描いた絵画作品を展示している。